



地域医会だより

# 平塚市医師会皮膚科部会

## 第23回例会

出席者：27名

日時：2001年1月24日（水）18：45より

場所：平塚市地域医療管理センター講堂（平塚市医師会館）

司会：山川有子

### I ペキロン、テクスメテン他 佐藤製薬商品説明（18：45－19：00）

佐藤製薬株式会社

### II 講演（19：00－20：00）

講師：中嶋弘先生（横浜市アレルギーセンター所長）

テーマ：「病気の陰にリンフォーマあり」

【内容の要約】：皮膚に腫瘤が見られれば誰でも腫瘍を疑い、生検などで診断を確認するが、菌状息肉症やATLの初期疹では他の皮膚病と鑑別困難なことが多く誤診することがある。この度いただいた「病気の陰にリンフォーマあり」は正に言い得て妙なタイトルである。この度は菌状息肉症やATLの臨床症状、特に初期疹の臨床的特徴を供覧し、疑わしき症例を診たときにはどうしたらいいかについて述べたい。その1例として、診断が困難な妙な皮疹を診たら一度は皮膚のリンフォーマ、特にATLの皮疹を考え出身地を聞き、一般状態を検査し、末梢血のフラワー細胞と抗HTLV-1抗体を調べる。また1-3ヵ月間治療してもほとんど変化がないか進行するような皮疹を診たら更に生検をする、あるいはしかるべき施設に紹介する。以上をルーチン化するだけでもかなり誤診は防げる。

今回は、専門家でも鑑別困難な皮疹のみによる鑑別診断を参加者と一緒に試してみて、皮膚科医の観察力を高めてみたい。

### III 症例検討（20：00－20：30）

- 1 栗原誠一（湘南皮膚科）：もんだinducedしいたけ皮膚炎
- 2 田口英樹（平塚市民皮膚科）：菌状息肉症の1例
- 3 山川有子（平塚共済皮膚科）：菌状息肉症の1例
- 4 西條正城（西條クリニック）：陥入爪の治療について

### IV 懇親会（20：30－）

共催：平塚市医師会皮膚科部会、佐藤製薬株式会社

（文責・山川有子）

## 第24回例会

出席者：25名

日時：2001年5月16日（水）18：45より

場所：平塚市地域医療管理センター講堂（平塚市医師会館）

司会：木花いづみ

### I ジルテック錠 住友製薬商品説明（18：45－19：00）

住友製薬株式会社

### II 総会（19：00－19：10）

### III 講演及び症例供覧（19：00－20：30）

講師：木花いづみ先生（平塚市民病院皮膚科部長）

山川有子先生（横浜市大医学部附属市民総合医療センター皮膚科助手）

テーマ：「救急皮膚科ER Dermatology」

【内容の要約】：皮膚科は救急とは縁遠い科に考えられがちであるが、頻度は高くはないものの皮膚病変を主訴とする、あるいは皮膚病変を伴った救急疾患の中には受診時に適切な診断・治療がなされないと急速に死に至ったり、後遺症を残してしまう症例が確実に存在し、疾患の種類も多岐にわたる。今回はその中から特に注意が必要な疾患について症例報告をまじえながら診断のポイント・緊急にまず行うべき治療について述べてみたい。（下線の引いてある疾患を今回はとり上げた。）

救急皮膚科の対象疾患（多田穰治：日皮会誌109、1797、1999より）

#### ◎皮膚外傷

挫創、切創など（小児虐待）

#### ◎物理化学的皮膚障害

熱傷、化学熱傷、凍瘡、電撃傷

#### ◎感染症

細菌性

toxic shock syndrome、壊死性筋膜炎……症例供覧：田島麻衣子（平塚市民病院皮膚科）

ガス壊疽

ウイルス性

#### ◎アナフィラキシー

薬剤（抗生物質、非ステロイド消炎剤、局麻剤など）……症例供覧：栗原誠一（湘南皮膚科）

食物（ソバ、小麦粉など）

昆虫（ハチなど）

ラテックス

#### ◎薬疹・中毒疹

toxic epidermal necrolysis

Stevens-Johnson syndrome……症例供覧：秋山朋子（平塚共済病院皮膚科）

#### ◎動物性皮膚疾患

マムシなど

### IV 懇親会（20：00－）

共催：平塚市医師会皮膚科部会、住友製薬株式会社

（文責・秋山朋子）

## 第25回例会

出席者：158名

日時：2001年9月28日（金）18：45より

場所：神奈中グランドホテル

司会：栗原誠一

### I ユーパスタコーク 興和株式会社製品説明（18：45－19：00）

興和株式会社

### II 講演（19：00－20：30）

講師：真田弘美先生（金沢大医学部保健学科教授）

テーマ：「褥瘡ケアと栄養管理」

【内容の要約】：看護における褥瘡ケアの優先順位は、・皮膚の観察、・褥瘡発生の予測、・圧迫の現象、・スキンケア、・栄養の管理、・患者と家族への指導である。

皮膚の観察、発生予測のアセスメント、床や椅子からの圧迫を減少させるケア（体位の整えや寝具の選択等）は、24時間の生活を整える看護者の責任であるが、栄養や褥瘡部のケアについては、医師や栄養士、薬剤師とのチームアプローチが必要となる。褥瘡ケアの中で最も難しいのは栄養管理である。それは、褥瘡発生危険性のある、あるいはすでに発生している人たちの多くは、経口摂取が困難であったり、さらに基礎疾患やターミナルステージ等といった患者の治療ゴール関係で、十分な栄養管理が行えない場合が多々あるからである。

ここでは、

- 1・褥瘡ケアにおける栄養管理の基本（直接的介入と間接的介入）
- 2・褥瘡ケアにおける栄養のアセスメント方法
- 3・褥瘡治癒を効果的に促進させる経口摂取を促す技術
- 4・褥瘡予防・管理における経管栄養の管理

について、症例を通して具体的に演者の実践を紹介させて頂いた。

### III 懇親会（20：30－）

共催 平塚市医師会皮膚科部会、興和株式会社

（文責・秋山朋子）



## 地域医会だより

# 三浦半島皮膚科懇話会 横須賀市医師会皮膚科部会学術講演会

## 三浦半島皮膚科懇話会 第26回例会 横須賀市医師会皮膚科部会学術講演会 第9回例会

日 時：平成13年2月3日（土）17：30

場 所：セントラルホテル

座 長 金丸 哲山（横須賀市、金丸皮膚科院長）

演 題 日常よく見る皮膚疾患の新しい治療薬

演 者 小澤 明先生

（東海大学医学部医学科感覚学系皮膚科学部門、教授）



皮膚科領域においては、昨年、日常よく見る疾患に対する新しい薬剤が次々に発売された。そこで、何故そのような新薬が開発されたか、何が特徴か、どうすれば有用に使えるか、あるいは注意することは何かなどについて、以下の点から概説した。

- 1) 蕁麻疹（CYP450の代謝を受けない抗アレルギー薬；アレグラ®）蕁麻疹の発症機序、原因別あるいは臨床経過からの対応、抗アレルギー、抗ヒスタミン薬の選択とそのポイント、CYP450と薬物代謝など。
- 2) アトピー性皮膚炎（タクロリムス外用薬；プロトピック軟膏®）わが国の実態、診断基準、民間療法の是非、治療ガイドライン、ステロイド外用薬の是非と使い方、非ステロイド外用薬の意義、生活指導、今後の治療など。
- 3) 帯状疱疹（バラシクロビル；バルトレックス®）神奈川県の実態、治療のポイント、早期診断の問題点、用法・用量における注意、抗ウイルス薬と腎機能、帯状疱疹後神経痛など。
- 4) 乾癬（活性型ビタミンD3外用薬；ドボネックス軟膏®、シクロスポリン新剤型；ネオーラル®）わが国の乾癬の実態、活性型ビタミンD3外用薬の使い方、ステロイド外用薬との混合による活性の変化、免疫抑制内服薬の位置づけ、血中濃度のモニタリングとその意味、QOLによる治療、経済効果と治療、治療ガイドライン、今後の治療など。

尚、当日、横須賀医師会皮膚科部会会長・小川英先生が勇退され、金丸哲山先生が新しい会長に選出された。

## 三浦半島皮膚科懇話会 第27回例会 横須賀市医師会皮膚科部会学術講演会 第10回例会

日 時：平成13年6月9日 17：30～

場 所：横須賀プリンスホテル

演 題 痒痒性皮膚疾患について

講 師 西山 茂夫先生（北里大学医学部名誉教授）



今回、痒痒性皮膚疾患のなかでも最も強い痒痒を訴える痒疹について述べる。

痒疹はその原因、症状等により様々な分類がなされるが、経験上、急性、亜急性、慢性の三つに分類することが適当である。今回は、そのなかでも中高年層に多く、様々な症状、原因を有し、その症状が比較的長期間にわたる慢性（一部亜急性）痒疹について具体的症例を示し、その組織学的特徴についても検討を加えることで原因を究明し、治療方法についても言及することとする。又、特に、肝機能障害や慢性腎不全、甲状腺機能障害、鉄欠乏性貧血、悪性腫瘍などに代表される全身性疾患に伴う掻痒や、発疹を伴わない掻痒についても具体的症例を示し、その原因究明や対処の方法についての注意点も述べることとする。

いずれにせよ痒疹については疾患としてではなく、ひとつの症状としてとらえ、その原因を究明することが重要と考える。

## 皮膚の日

講演：小澤明先生  
(東海大学教授)



11月11日（日）、1時～3時、横浜そごう9階の会議室にて開催された。まず1時～2時、「健康な皮膚と美しい肌を守るために」という題名で東海大学教授、小澤明先生の講演があり、出席者（約80名）は熱心に聴き入っていた。

続いて2時～3時、皮膚病無料相談が始まり、約50名の相談があった。6名の皮膚病無料相談医の諸先生、ありがとうございました。（金丸哲山）